

事業報告

平成30年度 教育事業

ミクロネシア諸島自然体験交流事業

平成30年6月21日(木)～6月25日(月)

【対象】ミクロネシア諸島青少年

【場所】国立信州高遠青少年自然の家
及び周辺地域

～趣旨～

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成する。

～主催～

主 催：独立行政法人 国立青少年教育振興機構（地方プログラム担当：国立信州高遠青少年自然の家）

後 援：外務省、文部科学省、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、パラオ共和国

～活動日程（信州高遠青少年自然の家滞在中におけるプログラム）～

	午前	午後	夜
《1日目》 6月21日(木)	信州高遠青少年自然の家 到着	歓迎の会・オリエンテーション	
《2日目》 6月22日(金)	小学校訪問&交流	ホームステイ先の子どもたちとの 共同宿泊体験(自然の家泊)	
《3日目》 6月23日(土)	体験活動&対面式・交流	ホームステイプログラム	
《4日目》 6月24日(日)	ホームステイプログラム	フェアウェルパーティー	
《5日目》 6月25日(月)	出発準備	信州高遠青少年自然の家 出発	

～参加者～

ミクロネシア連邦チューク州・コスラエ州（青少年24名、随員4名）計：28名

ホストファミリー 12家族（伊那市内の家庭）

～活動トピックス～

6月21日 信州高遠青少年自然の家到着、歓迎の会

一行は東京でのプログラムを終えてバスで長野県入りした。昼食では名物の釜飯を食べ、その後100均ショップでの買い物を楽しみ、時間いっぱいお土産や思い思いの品を購入し、満足げな表情であった。

夕方には信州高遠青少年自然の家に到着し、歓迎セレモニーを行った。その後、施設での最初の夕食を食べ、長旅の疲れを癒やすように入浴し、一日目を終えた。



6月22日 高遠小学校訪問、共同宿泊体験

地元高遠小学校の児童との交流集会を行った。高遠小学校からは歓迎の挨拶や全校児童による校歌の披露があり、チューク・コスラエの子どもたちからは伝統の歌や踊りが披露された。

その後、5、6年生の児童が計画してくれた日本伝統の遊びやゲームをして和やかに交流をし、給食を一緒に食べた。短い時間ではあ



ったが楽しい一時を過ごすことができた。また夜はホストファミリーの子どもたちと共同宿泊体験を行った。初めて出会った子どもたちであるがすぐにうち解けることができた。



6月23日 共同体験活動、ホームステイプログラム

講師をお迎えし、藍染めの体験を行った。それぞれに工夫され、染め上がりも上々で全員満足した面持ちであった。

午後からはホストファミリーとの対面式を行い、ホームステイ先での交流プログラムが始まった。各ホストファミリーそれぞれに計画を立てており、ミクロネシアの子どもたちも日本の家庭の生活を楽しく体験することができた。

6月24日 ホームステイプログラム、フェアウェルパーティー

残された貴重な時間を有意義にとホストファミリーの皆様が名所の見学、ショッピング等工夫されたプログラムが進められた様子が各ファミリーからの写真より伺えた。

高遠での最後の夜、フェアウェルパーティーを行った。ホストファミリーの皆さんも多数参加し、二日間の思い出を語りあったり、ミクロネシアの伝統的な踊りを披露してくれたり楽しい時間を過ごした。最後はやはりホストファミリーとのお別れが辛く互いに涙を流す場面が見られ、交流の成果を確かめることができた。



6月25日

地方プログラム最終日となり、一行は世界遺産である国宝松本城を見学した。

「烏城」とも呼ばれ、真っ黒な全容に驚嘆の声も聞こえた。城の中では外国語のボランティアガイドの説明に真剣に耳を傾け、細かなところまで工夫された造りに、日本文化の一端を目にすることができた。

その後松本市内で最後の昼食を摂り、信州高遠でのすべてのプログラムを終え、帰路へついた。



～参加者の声～

- 今までこんなたいけんをしたことがなかったのでころにのこりました。こんかいはそんなに会話ができなかったの、もっと英語を勉強して、次は自分がむこうの国に行きたいです。
- 言葉がつうじあわなくても心でつうじあえてすごいと思っ、またホストファミリーをしたくなっ、ミクロネシアに行ってみたいし、またあいたいです。
- さいしょはきんちょうをしたけど、やっていくうちにだんだんおもしろくなってきて、またやりたいと思っ。おもしろかったけど、さいごがすごくかなしかった。
- 同じ思い、考えのホストファミリーの方々とも出会うことができ、今後もチャンスがあれば受け入れたいと思っ。
- 今回受け入れをした子どもたちから「日本について知りたい。」という気持ちを感じられなかった事が残念で、正直次はどうか？と思っています。(自分たちから質問、話しかけるばかりで、あちらからのアクションは皆無でしたので…)

～成果と課題～

- 国際交流の機会を通して、地元の小学生やホストファミリーの人たちが今後もさらに進むグローバル社会を意識し、国際感覚をつかむよい機会となった。
- 年度が替わり早い段階で本事業が実施となるため、ホストファミリーの募集方法や交流する学校との日程調整などを前年度より進めておく必要がある。